第４７回 岡山県高等学校商業教育研究大会の報告

副委員長会による「主体的・対話的で深い学びの体験」研修
ーカリキュラム・マネジメントー

県立津山商業高等学校　教頭　　二　木　信　輔
県立岡山東商業高等学校　教頭　　福　岡　明　広

Ⅰ　経緯・概要

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（平成28年8月26日中央教育審議会教育課程企画特別部会）」では，次期学習指導要領は学校教育を通じて生徒たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容など全体像を分かりやすく見渡せる「学びの地図」として，教職員のみならず生徒自身が学びの意義を自覚する手掛かりとしたり，広く社会で活用したりできることを目指している。

カリキュラム・マネジメントの実施観点

つまり，これからの教育には，定められた手続を効率的にこなしていくことにとどまらず，感性を豊かに働かせながら，どのように未来を創っていのか，どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え，自分なりに試行錯誤し新たな価値を生み出していくことが求められている。そのためには生きて働く知識を含む，これからの時代に求められる資質・能力を社会と連携・協働しながら育む「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となる。情報活用能力や課題解決能力なども含め，特定の教科等だけでなく，教科等を超えた視点，教育課程全体としての効果を発揮できる資質・能力を身に付けることを求めている。

そのために，各学校が「カリキュラム・マネジメント※」を通じて，生徒たちが「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を組み立て，家庭・地域と連携・協働しながら実施し，生徒たちの姿を踏まえながら不断の見直しを図ることが必要である。

とりわけ高等学校においては，社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付ける「共通性の確保」の観点と，一人一人の生徒の進路に応じた多様な可能性を伸ばす「多様性への対応」の観点を軸としつつ，育成すべき資質・能力を明確にし，それに基づく「カリキュラム・マネジメント」を実現する必要がある。

1　カリキュラム・マネジメントの三つの側面

論点整理では，これからのカリキュラム・マネジメントの三つの側面として次のように挙げている。

①教科横断的な視点
②PDCAサイクルの確立
③教育内容と教育活動を効果的に組み合わせる

今回の改訂が目指す理念を実現するためには，教育課程全体を通した取組により教科横断的な視点から教育活動の改善を図っていくことや，学校全体としての取組を通じて，教科等や学年を越えた組織運営の改善を実施することを求めている。

ここで言う，「教科横断的な視点」とは，グローバル化や情報化をはじめとした変化の激しい時代に対応するには，多分野の知識を学び習得することが必須であり，そのためにも体系化されたカリキュラムが必要となる。生徒たちに必要な資質・能力を育成するために教科等間の相互の連携を図ることによって，それぞれ単独では生み出し得ない教育効果を発揮させたいためである。ある教科や単元で学んだ成果が定期試験等で確認されるだけでなく，その教科や単元を適用する場面を離れたところでも他者と協働しながら主体的に問題解決していくことができる汎用能力が求

※カリキュラム・マネジメントとは，学習指導要領等を受け止めつつ，生徒たちの姿や地域の実状等を踏まえて，各学校が設定する学校教育目標を実現するために，学習指導要領等に基づき教育課程を編成し，それを実施・評価し改善していくこと。

められている。これらを実現するためにも，一人一人の教師が日々の授業を通して何を生徒たちに身に付けさせたいのかという指導の方向性（ベクトル）をそろえた取組が重要ということである。

また，「育成すべき資質・能力」とは，新しい学習指導要領等が目指す姿，各学校段階・各教科等における改訂の具体的な方向性等を示した論点整理において，学力の三要素を議論の起点とし，これからの社会を創り出していく生徒たちに求められる資質・能力を三つの柱で整理した次の要素を指す。

①何を知っているか，何ができるか（個別の知識・技能）

②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）

③どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びに向かう力，人間性等）

2　効果的にカリキュラム・マネジメントを実施するには

多くの教職員にとって，各教科等については，年間指導計画や単元の実施計画などで実感として捉えている。しかし，教育課程となると抽象度が高くなり日常の授業などから遠いものとなりがちである。

学校のビジョンを明確に掲げ，生徒たちに身に付けさせたい資質・能力について校内で共通理解をしっかり図り，組織の推進力と方向性を整えることが大切である。

また，管理職のみならず，全ての教職員がカリキュラム・マネジメントによる取組を身に付けるためにも校内研修について新たな発想や工夫が望まれる。

各教科で学ぶ研修とともに各教科等を学ぶ研修，一つの教科等を全校あげて取り組む研修，一つのテーマを選択して，育成を目指す資質・能力に関する各教科等からのアプローチなど多様なスタイルの研修等への転換が問われる。全ての教職員が自らの専門とする教科等を起点に，その枠を越えて教科等の相互関連や教育活動を教育課程との関連で捉え，教育課程で見えたり考えたりできる発想や思考様式を校内に浸透させることが大切である。

3　岡山県高等学校商業教育研究大会での挑戦

平成 25 年度から岡山県高等学校商業教育研究大会は，午前中基調講演を行い，午後から三分科会での研究・研修会としている。その成果として①学習指導要領の趣旨を活かした教育活動の展開，②教員の資質向上と意識改革，③商業実務競技大会等の諸事業の活性化に大いに成果を得ている。多くの商業科担当教員が一同に集まり研修する場はここにしかない。

この場を借りて，今回の改訂の柱となる「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」の理念を，各学校に浸透させ，さらには教職員一人一人が自分事として捉え，今後の教育活動に当たっていく姿勢づくりを目的に，午後の分科会に替えて副委員長会による研修会の企画に踏み切った。

企画立案での留意点は次のとおり。

・協働で参加型の研修であること
・PDCA サイクルを必要とすること
・仕掛けに改訂の三つの柱が盛り込まれること
・異世代・異校種の集団を創ること
・先入観なく研修に入れること
・午前の基調講演に繋がること
・「納得感」と「協働意欲」を醸成すること
・主体化の種まきをすること
・多面的な着眼点から考察を加えること
・「組織」として把握すること
・問題の主因を突き止めること
・着手領域の優先順位を検討すること
・アウトカム（効果）実現可能性を高めること
・戦略的な決断をすること
・役割と責任の所在を明確にすること

↓

ワークショップ型研修
主題「主体的・対話的で深い学びの体験」

Ⅱ　新しい時代に求められる資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメント研修

1　日程

13:00～

第 1 部：スタートアップ(70min)
配役袋開封
Situation 袋開封
DATA I 袋開封
商業高校の現状を SWOT 分析

14:10～　休憩(10min)
14:20～
第２部：ブラッシュアップ(60min)
DATA Ⅱ袋開封
新たな取組紹介：倉商，津商
15:20～
第３部：アウトプット(30min)
グループ交流：ワールドカフェ
明日の一歩を宣言
15:50～　講評

２　参加者
・総数 174 名
（内訳）

商業科教員	136 名（県外２名含）
普通科教員	9 名
大学教授	1 名
地元大学生	28 名

・午後の部参加者総数 134 名を１グループ最大６名とし，22 グループを編成した。

３　内容

「○△高校の未来を考える」をテーマに学校評議員会に出席している。
学校の現状を把握し，それぞれの立場でよりよい学校づくりの学校ビジョンを協議し，
○○に対して
○○することで
○○な高校をつくろう
○○に適語を入れて完成させ，解決策を立案し，３つの重点取組事項にまとめる。

このように学校評議員会に出席している場面を想定する。
「○○」の適語（○○は，２文字に限ることなく，また言い回しを多少変更しても構わない。）を導く過程から，学校の現状把握やよりよい学校づくりの学校ビジョンを熟議する。つまり，複雑化・多様化する学校の課題に気づき，家庭や地域と連携・協働し，目の前の生徒たちの姿を踏まえながら不断の見直しや学校運営の改善・充実への疑似体験をする。
最終的に，解決策を立案し，３つの重点取組事項にまとめ，自分で明日からできることを宣言する。
研修会全体の時間を考え，第１部スタートアップとして 70 分，第２部ブラッシュアップに 60 分，第３部アウトプット 30 分の３部構成とした。

（1）第１部：スタートアップ
ア　なりきり自己紹介
各グループメンバーの異なった学校環境や異なった世代感などの隔たりを埋めるため，演劇的手法を取り入れ，学校代表，同窓生代表，ＰＴＡ代表，町内会代表，中学校代表，地元企業代表の配役を取り入れた。
○△高校に何が期待されているのか，○△高校に何ができるのか，○△高校はどんな役割を果たしていくのかをその役になりきり熟議していく。

(ｱ) 学校代表
勤務８年目，教務主任，商業学科・商業コースの志願者が定員のギリギリでヤキモキ
(ｲ) 同窓生代表
子供が２年生で文化部に在籍していて，もっと活発に活動してほしいと願う
(ｳ) ＰＴＡ代表
ＰＴＡでは役員をうまくリードして，同時に同窓生でもあることから学校への期待が大きい
(ｴ) 町内会代表
地域の安全安心な街作りに熱心で，学校と一緒にあいさつ運動や地域イベントを開催
(ｵ) 中学校代表
県の授業力向上モデル校として研究指定を受け，アクティブラーニングを推進
(ｶ) 地元企業代表
中小企業を営んでいるが，インバウンドを期待し外国人の雇用も検討

なりきり自己紹介

イ　○△高校のおかれた状況の把握と共有化

ＳＷＯＴ分析により，○△高校のプラス要因とマイナス要因を把握し，○△高校の特色づくりに向けた取組を検討する。

Situation表

昨年の入試で○△高校の志願者が相当減った。今年の出願状況を見ても、また当日の欠席状況を見ても、実際の倍率が低いだけでなく、受検した生徒も相当減っている。

この状況になったのは、様々な原因が複合した結果だと思われる。

世の中全体の不景気や政府の制度改革および県の方針の変更などが考えられる。大学ですら定員割れを起こす時代だから、高校も定員割れを起こしてもおかしくない。

そこで危機感を持ち、中学校に出向いて学校紹介をしたり、塾責任者を集めて宣伝したりするなど生徒募集に力を入れている。

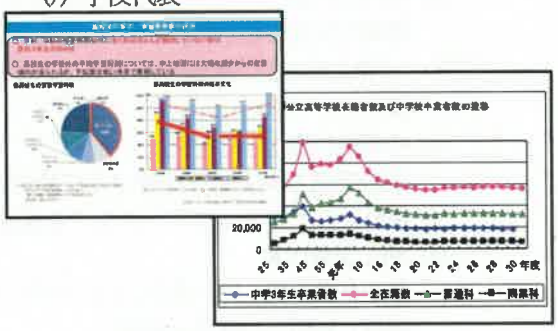
○△高校DATA

所　　在	政令指定都市に立地する県立商業高校 （商店街が近くにある）
開　　校	80年目（大正時代に中学校として開校）
生 徒 数	定員840名　男子355名・女子370名
進路状況	就職約2割（事務職10名　他現業職） 進学約8割（国公立大学2名）
部 活 動	運動部12　文化部12 （3つの部が全国大会へ出場）
検定状況	3種目1級合格　92名 未取得者　　46名

ウ　配役に応じた情報

イの SWOT 分析をよりリアルに疑似体験するため，共同学習のよく用いられる学習方法のジグソー法を取り入れ，次のような配役に応じた情報を提供した。

(ｱ) 学校代表



・高校生の学力・学習意欲等の状況
・岡山県の中学校卒業者数の推移
・文部科学省西村調査官のメッセージ
・40 年を目途とする県立高校教育体制の整備の概要(中間まとめ)
・県立和気閑谷高の全国から生徒募集

(ｲ) 同窓生代表
・学校教育へのチェックリスト
・次世代の学校・地域創生プラン

(ｳ) ＰＴＡ代表
・高大接続改革の全体像
・PTA は最も学校に身近な社会

(ｴ) 町内会代表
・生徒の社会参画に関する意識
・社会とのつながりを意識した事例

(ｵ) 中学校代表
・学習指導要領改訂の方向性
・中学校新学習指導要領「社会」解説抜粋

(ｶ) 地元企業代表
・新卒採用に関するアンケート結果
・人口知能に代わる仕事未来の雇用の抜粋

情報の整理・把握

エ　○△高校の学校経営ビジョンづくり

周囲の関与者の学校に対する期待と，学校ができることを踏まえた○△高校のミッションを探索する。

情報を持ち寄り SWOT 分析

情報共有し，熟議を重ねるグループ作業

各班で導き出された重点目標

1
- 地域の良さを発見し、地元に愛着を持つ人材の育成。
- インターンシップを利用した実践教育の充実。
- 主体的な学習環境づくりと意識改革。

2
- 地域行事の企画・運営など地域連携の充実
- 様々な検定資格取得を塔して幅広い進路実現
- 進路決定に向けての資料提供など、きめ細かい指導がなされていることなどをオリジナル商品とともにPR

3
- 地域から愛され地域とのつながりが実感できる学校
- 特活、ボランティア等で生徒の個性を磨くことができる学校
- 文武両道を実現できる学校

4
- 積極的な地域連帯
- 学力の向上
- 魅力ある人間づくり

5
- 確かな学力を向上させる。
- 地域との交流を活発にする。
- 部活動日本一。

6
- 地域の人的・物的・地理的資源をフル活用する。
- 小中学校の学び方を連続し将来にわたって学び続ける姿勢を身につける
- 社会や仕事につながる学びを展開する

7
- 地域で活躍できる環境作り
- 中・高・企業との連携の実施
- 学校内での情報共有
- 保護者、地域に対しての情報発信

8
- 商業の魅力、学校の魅力の特徴を高校生自身が発信する。
- 勉強と部活動の両立をアピールする。
- 小中高大の連携を地域と共に。

9
- 一人一つの目標が持てる学校
- インターシップや地域・企業イベントに参加できる体制づくり
- 若者の力を活用して地域で活躍できる学校

10
- 人づくり(身だしなみ、言葉遣い、心遣い、挨拶など)
- 地域とのつながり(商店街等に出ていく、校外での体験)
- 魅力ある授業(学力向上、学習意欲向上)

11
- 中学生に商業高校でどのような事を学びどのような力をつけるのかわかりやすく発信する
- 姉妹校や国際交流を通じて異文化理解を進める
- 学校で身につけた力を発揮するべく、地域社会とのつながりを進める

12
- 地元志向 ～地元に残る人材育成～
- 世の中と呼吸する ～実社会に対応する授業改善～
- 情報発信 ～開かれた学校づくり～

13
- 部活動で全国大会目指します
- 資格取得、未取得者ゼロへ
- 商店街よろずや出店・開業

14
- 学習面の充実 外部講師 インターシップなど地域の方に活躍してもらう
- 地域へのアピール ボランティア、地域行事への参加
- 進路 就職進学後の地元就職で地域を支える

15
- 中、高、大地域の4連携で開発プロジェクト
- 高校生による出前授業で経済活動を学ぶ
- 姉妹都市と連携して人とモノとの交流

16
- 生徒が企画する学校行事(文武両道)
- アクティブラーニング(進路実現)
- 地元商店街とのコラボ(身体的文化資本)

17
- 地域を題材にしたカリキュラムの構築
- 教科・科目を横断したカリキュラムマネジメント
- 様々な体験により学ぶ意欲を育成

18
- 地元・地域の行事への参加を増やす
- 学校の活動をPRするため、マスコミを多く利用する
- 商店街や企業と連携した活動を充実させ、リーダーを育成する

19
- 生徒が主役となる学校
- 地域創生に参画する学校
- 成長が実感できる学校

20
- 授業力向上の取り組み実施
- 人づくりを意識した道徳・マナーの実施
- 勤労観・職業観を意識した社会貢献活動の実施

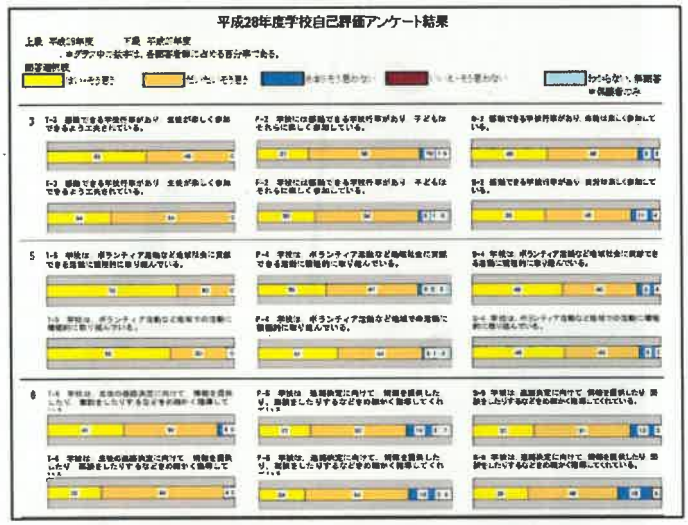
21
- 学習意欲upグループ学習で検定未取得者ゼロ
- 行事、部活動1人1人がイキイキ輝く
- 地域連携地域のおまつりへの参加、清掃活動商店街の活性化

22
- 様々な場面で自己表現できる学校
- 生徒一人一人に対してきめ細やかな指導ができる学校
- 地域と連携できる学校

（2）第２部：ブラッシュアップ

ア　学校自己評価アンケート結果

学校評議員会の想定から，〇△高校の経営ビジョン探索の最終段階で学校自己評価アンケート結果を参照し，案を洗練する。



アンケート結果の特徴として，〇△高校の教員，保護者，生徒の回答結果は肯定回答が８割を超えている設定である。但し，家庭学習について，「習慣をつける指導ができている・習慣が身に付いている」という問いに対して教員は34%の肯定的な回答で，保護者は53%，当の生徒は40%といずれにしても低調である岡山県の現状を射影したものとしている。

イ　先進的事例１「津山市内県立四校連携講座」

県立津山商業高等学校

牧野美穂教諭　と　安東真美教諭

津山市内の県立四校が，学校を越え，地域と連携・協働し，地域の課題解決に取り組んだ四校連携講座「地域創生学」の事例発表

ウ　先進的事例２「倉商 AAA」

県立倉敷商業高等学校

大石智香子教諭　と　西山幸江教諭

教科横断的な視点で倉敷美観地区を題材に教科「商業」と「英語」そして現実社会と結びついた教科横断型学習の事例発表

先進的事例１「津山市内県立四校連携講座」

四校連携講座「地域創生学」とは

- H8～H27学校間連携（津山市内3校、津山商業・津山工業・津山東）
- H29～＋津山で新講座「地域創生学」開設（テーマ「地域創生」）
- 地域と連携した「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）
- 様々な分野（産業、観光、教育・文化、医療・福祉など）→フィールドワーク・出前授業

四校連携講座「地域創生学」のねらい

- 県立高校四校が連携
- 多様な学習活動と成果の発表
- 地域の諸課題を発見
- 様々な力を有した人材の育成

多様な学習活動

- フィールドワークと出前授業
  →各分野のスペシャリスト育成
- グループディスカッション
  →知識の統合と分析
- ディスカッションドラマの創作
  →学びの取捨選択

地域の諸課題を発見

- 知識や意見の共有
  （フィールドワーク・出前授業・自己調査から）
- 共有による地域の共通課題・相違課題の発見

→意見の尊重と自由な対話→活発な話し合いへ

様々な力を有した人材

将来の地域を担う人材

生徒の感想から

- 同じ高校生でも、学んできたことや学ぶ環境が異なると視点が違うな、と思った。工業ならば物づくり、商業なら金・経済、普通科は発展させて考えるなど・・・異なった視点からの指摘もあり、自分も大きく成長できたと思う。

（津山商業3年生女子）

生徒の感想から

- それぞれの分野で地域活性プランを考えても、予算内でプランを実施するには、どうするか。すべてが協力してハッピーに終わるのか、次に持ち越すのか、全部だめなのか、どこにどれだけ使うのか・・・なかなか難しい。ドラマ作りの結末を、周りの人の意見も踏まえて一緒に考えていきたい。（津山商業3年生女子）

さいごに

四校連携講座「地域創生学」で
津商生ができる三つのこと

- 経済・経営資源や地域の強み弱みを分析
- 利益を上げ、持続可能な地域活性策の提案
- 新しいビジネスの創造

先進的事例２「倉商 AAA」

倉商AAAの取組み

倉敷商業高等学校　商業＋英語の現実社会と結びついた教科横断型学習の実践

岡山県商業教育研究大会　Thursday, August 17, 2017

「分かった！」「できた！」「楽しい！」

地域に誇り、自分に誇り につながる学習のために

IT'S NOT NEW AT ALL!

① 地域社会の中の「教材」活用
　－必要性・繋がりの中での学習

② 地域社会の力をお借りする
　－担当者だけでは教えきれない

③ 生徒も教員も１歩踏み出す勇気
　－チャレンジできる環境づくり
　－やめませんか、
　　できない理由探し

倉商AAAの活動

昨年度の活動の様子をご覧ください。

年間指導計画と授業案

現実社会の中で学ぶ「商業」「英語」

【授業内容】
1学期　倉敷美観地区やその歴史などについて知識を膨らす。
2学期　ガイド実践
3学期　まとめ

STEP by STEP
地域からのサポート

【２教科の教材】
商業：マーケティングリサーチ
　より良いサービスの提供など
英語：表現　話すうえでの注意点など

課研新講座開講まで

ワクワクできる講座を目指して

【背景】
●立地環境
　倉敷美観地区が徒歩圏内
●時代の流れ
　2020年東京オリンピック・パラリンピック
　観光産業の盛り上がり
　外国人観光客の増加

地域からのサポート①

教科・科員指導者の拡大

林源十郎商店代表
辻 信行 様

倉敷市教育委員会
文化財保護課
[illegible] 様
大村 光孝 様

倉敷善意通訳会
小松原 迪郎 様

地域からのサポート②

倉敷地区ウエルカム
観光ガイド連絡会

倉敷市観光課
小野 雅生 様
谷川 [illegible]智 様

【その他】
●過去の実績

●モデル
　岡山商業高等学校
　国際経済科３年生総合実践での
　英語による後楽園観光ガイド

【課題】
●地域との連携
●費用捻出
●校内理解
　商業科・英語科 他

【期待できる効果】
●生徒の学習意欲の向上
　①倉敷美観地区について
　②ガイドの仕方・言葉遣い
　　⇔コミュニケーションスキル
　③英語力ＵＰ
●地元に誇り・地元に貢献
●おもてなしの心

倉商AAA
(Amigo Area Attendant)
担当：西山幸江（商業）・大石智香子（英語）

地域との繋がり

ひろがる輪－倉敷市内高校生のおもてなし

倉敷支援学校とのコラボ

（3）第３部：アウトプット

ア　グループ交流

「つながる」「可視化」「共通理解」を広げ，個人内ブラッシュアップ（PDCA サイクルの促進）のためにワールドカフェ方式で相互発表する。

イ　フィードバック

元のグループに戻り，他グループの情報を持ち寄り，今回の協議を振り返る。

ウ　明日の一歩を宣言

生徒や保護者等の○△高校に対する期待と一方で教師として自分ができることを踏まえ，自己のミッションを探索する。

参加教員（一部抜粋）

課題研究における提携企業の選定
学校と地域の連携で何ができるか考えたい。
地域資源と学校教育をつなぐ方策を考える！
知識重視の教育だけでなく、主体的・総括的で深い学びを意識した授業展開の実施
生徒への問いかけの仕方をひねる。個性を引き出し、自分発見の機会を与える。
自校の良いところ発見そして発信
きめ細かい指導（授業・進路・部活動）
できない理由を探すのではなく、できる理由を探す。
色々な分野の立場からの考え、研究大会を思いながら、学校を色々なところで PR したい。
自分が学ぶ時はもちろん、生徒に指導する際も、なぜ学ぶのか、どのようにして学ぶのかを明確にしたい。そのためにもまずは経験することから始めます。
リアルな体験学習を通して真の実力が養えるよう授業改善に取り組む。
授業改善に取り組みグループ学習協同活動に取り組みたい。
ボランティア活動への積極的参加
教科での学びが社会とのつながりを意識できる授業になるような授業計画
魅力ある学校づくりの為に教科を越えて教育連帯できるようにコミュニケーションをとっていきたい。
授業改善　地域連帯　学力の向上
様々なことに挑戦させたい（できないことはさせてみてはじめて気付く）
2学期から、自宅学習の習慣が身に付くよう計画的な取り組みを考える。学力向上の授業改善をしっかりやろうと思う。
挨拶運動、地域ボランティアを通じて地域密着に貢献し、情報を共有していきたいと考えます。
商業高校の魅力ある情報を地域に伝えて、地域に愛される学校を作ろうと思います。
確かな学力を生徒に身につけさせ、しっかりした土台のある生徒を育てる。
生徒主体型の授業を展開するし、（毎時間は難しいので、その単元でまずは1時間から）生徒の思考を引き出す発問＋受け入れる
自己有用感をまずは自分が持つこと
商業は人づくり　原点を忘れない
3年後にどんな生徒を育てるか意識した人づくり
学校行事、クラス行事において、あまり先回りせず生徒自身の力で取り組ませ成功でも失敗でも体験させる
生徒がワクワクできる学校づくりをする
学校の良いところを見つけて地域に情報発信したい。

参加大学生

生徒のことをしっかり見守り地域とのコミュニケーションをしっかりとる。
進路実現に向けての意識改革
相手のコンテクストを理解する
今回の学びを今後に活かしていきたいと思います
生徒に教えていく立場になるので自分自身がこれから必要とされるコミュニケーション能力を高めていく
自分の意見をもっと言えるようにし、多くの人とコミュニケーションをとれるようにする
目標を持って生活できるよう心掛け、自ら積極的に何事にも取り組む
生徒が自主的に活動を行えるような、指導を行える力をつけていく
学校と地域の関わりという視点で取り組んでいきたい。
生徒と積極的にコミュニケーションをとる。ボランティア、資格等を取得、新たな知識を身に付け同じ目標で頑張っている仲間に発信（共有する。）
学びのつながりを意識し、自己有用感を自分が持ちます。
教諭目指して、頑張ります！
目標をもってそれに向けて努力すること
目標をもって行動したいと思った
地域と連携する
今日学んだことを生かし参考にしあきらめずに自身にチャレンジする。
多くの人と話をし、意見をまとめる
地域のことをよく知るために情報を集める
一方的に教えるのではなく、伝えたいことなどモチベーションを引き出す教育

Ⅲ　おわりに

今年は副委員長会が午後を一手に引き受けるということで，このようなワークショップを試みた。このワークショップは，前述のカリキュラム・マネジメントの実施観点や「学校組織を強化するプロセスマネジメント研修」をモチーフにプログラムしたものである。普通は2日間かけてじっくりとおこなうもので，時間の制約からかなり急ぎ足で進行した分，参加者には不完全燃焼の方もいたのではないかと案じている。

しかしながら，普段あまり意識していなかったことが発見されたのではないか。つまり，学校ビジョンや学校経営計画は，このようにして作成され，教員一人一人が当事者意識をもって取り組まなければならないということが気づけたのではないか，そういう意味で，意義があったと思う。

最後に平田オリザ先生からの講評（一部抜粋）を記し，おわりとする。

平田オリザ先生からの講評：

今日の研修会は，非常にスローガン的なもの，抽象的なものになってしまったという印象があったのではないかと思います。

こういうものをやるときに，クリエイティビティーぐらいは評価の基準になるんですけど，もう一つ日本のこれまでの学校教育にはなかった評価基準としてはユニークネスというのがあります。要するに独創性ですね。ほかにないものを入れるということが，通常は評価基準になります。ユニークネスは一部のグループにはあったのですが，あまり見られなくなったかなと思います。それは先生方の責任ではなくて，これは普通，出題者の側の責任と考えます。

ここが難しいところで，先ほど私はずっとこういう，大学入試とかの最先端のことでいろいろな問題を考えてきたわけですけれども。これは本当にさじかげんですね。結局，試験だったのが受験者の能力や人数や時間や，それが試験なのか授業なのか，あるいは奨学金選抜みたいな比較的緩い，その中間みたいなものなのかによって，もう本当にさじかげんで，ちょっとしたさじかげんでアウトプットが違ってきてしまう。

今日のことで言うと，先生方ですから，もうちょっと負荷を掛けてもよかったかなと思います。例えばちょっと問題のある学校で，たぶん優しくなさったと思いますが，文科省なり県教委から，商業高校の問題は最後にあとから出されました。でも最初の問題設定のところで，ユニークな何かほかにはないような特徴を出さないと，もう統廃合の対象になるぐらいの負荷を掛けたほうが，たぶんよかったかなと思います。今日の先生方は，それで十分できたと思うので，だから少なくとも一つは必ずユニークな方法をつくりなさいというようなことが必要だったかなと思います。

＜中略＞

今日のカリキュラムの話に戻りますと，要するに，たぶんもうちょっと他者性が必要だったんだと思うんです。まず，そもそもが今日は全員先生なので，似たような価値観，似たような職場の方たちなので，それで役割を担わせたわけですよね。そこまではよかったんですけど，それでもやっぱりちょっと弱かったんだと思う。だから，もっと文科省って嫌な官僚とか，県教委の人，厳しい人とか，何かもっとどうしようもない人，どうしようもない運命をもたらす人，浅野内匠頭みたいな人を入れると，もうちょっとよかったのかもしれないですね。

そうじゃないと，先ほど言ったように，生徒たちに議論させるときに，どうしても同一性が強いので結局，常に落としどころを見つけようとしてしまうところがありますね。だから，他者性を強くして，このダイアログの関係をつくるということが一つ大事になります。

もう一つは，私の専門で言うと冗長率のことがあります。これは一つのセンテンス，一つのパラグラフの中で，どのぐらい無駄な言葉が入っているか。意味伝達とは関係ない言葉がどのぐらい入っているかというものなんですけど。これは普通，会話が冗長率は一番高くなるように思いますよね。無駄話というぐらいです。しかし，会話というのは親しい人同士のおしゃべりなので，あまり冗長率が高くならないですね。一番冗長率が低いのは，長年連れ添った夫婦の会話です。飯，風呂，新聞，ものすごく冗長率が低いですね。それから演説やスピーチというのも冗長率が低いほうが聞き取りやすくなる。「えー」「あー」「うー」などが入ってくると聞き取りにくくなる。

ここでも冗長率が高くなるのは対話なんですね。対話は異なる価値観を持った人とのすり合わせなので，時間がかかるんですね。お宅のおっしゃることは分かりますけれども，どうでしょうか。ここは一つ私たちが，そうですね，まあ，と。ここまで何も伝えていないでしょう。これは時間がかかるんです。

今までの日本の国語教育は冗長率を低くする方向に教えてきたんですよ。書き言葉の教育だったら，それでいいんです。書き言葉は基本的に冗長率が低いほうが伝わりやすい。ただ，話し言葉は，そうはいかないんですね。あの人，話がうまいなと思うのは，冗長率

の低い人ではないんです。論理的にしゃべる人ではないのです。そうではなくて，冗長率を操作できる人なんです。このカテゴリーに応じて冗長率を切り替えられる人なのです。

例えば皆さん，NHKの7時のニュースと9時のニュースで，冗長率がちょっと違いますよね。7時のニュースは情報を的確に伝えないといけないので，冗長率は低くなります。9時のニュースだと，キャスターのちょっとした見解などが入っていますから，ああ，こういう季節になったんですねとか，これやってみたいなと。民放10時の報道ステーションになると，かなり冗長率が上がるんです。ただ前任の古舘さんが，ちょっと一部に人気がなかったのは，あの人，冗長率が変なんですね。大事なところで，何か照れちゃってここは冗長率低くしろよみたいなところで余計な話になっちゃうので，余計なことを言うなと思われちゃうんですね。そこでさらに，その前任の久米さんはやっぱり天才で，トピックにおける冗長率の切り替えがものすごくうまいんですね。

今日のようなワークショップ形式の議論というのは，まさにそういうところがあって，ただ単に論理的に正しいことを求めても，なかなかいい答えは出てこないんですね。冗長率の高さを恐れない。無駄なこととか脱線，寄り道にヒントがあったりするので，ちょっとそこのところの要素ももう1個入れてもたぶんよかった。寄り道しやすいようなものというのも，そこはユーモアといってもいいと思います。あるいはペーソス，皮肉とかそういうものでもいいです。あるいは意地悪な視点と言ってもいいと思いますね。

私はよく大学生たちにこういう授業をやるときに，世の中のあらゆる職業というのは，たいてい人を幸せにするためにあるんだけれども，劇作家だけは，どうすれば人が不幸になるかだけを考えている嫌な商売だという話をよくします。

例えば，難病の子どもとかがいますよね。アメリカでしか手術が受けられないとかで，何千万か寄付を集めて手術を受ける。よく美談として紹介されますね。これもアクティブラーニングの授業でよく使うんですけど，学生たちに，じゃあ，親がどんな職業だったら困ると思うか，どうすれば困るか，どうすれば演劇になるかという話をします。もちろん学生は阪大の学生ぐらいになると，頭の回転が速いのでいろいろ答えが出てくる。例えば政治家や医者，自分でも治せるけど法律上治せないのでアメリカへ行く。あと面白い答えがありました。やくざとか風俗嬢とか，反社会的な仕事に就いている人。

でも，私の用意している答えは，アフリカの難民救済のNGOのリーダー，要するに5千万でも8千万でも集める能力とネットワークは持っているけど，集めちゃったら，5千人のアフリカの子どもたちを救えるんです。それを自分の子どものためだけに使えるかどうか。

人間が悩むというのは，そういうところなんだと思います。相反する何かのものを入れていったりしたときに初めて人々は悩む。そこにドラマが生まれます。例えば私が指導している医療コミュニケーションの方に糖尿病の先生方がいて，糖尿病劇場をやっているんですけど。最初は啓発劇で，患者さんがお菓子をバクバク食って困るというのをつくっていたんですけど，やっぱり劇のレクチャーを受けるにつれ，おじいちゃんが糖尿病で，お母さんがシングルマザーで，娘さんと家族3人で暮らしていて，お母さんはシングルマザーだから，ずっと家を空けていて，おじいちゃんとお孫さんといつも暮らしていて，その大好きなおじいちゃんのためにお孫さんが初めてケーキを焼いてくれました。さて，どうしよう。どうやって説得しようと。じゃあ，その代替案はあるのか。ちょっとケーキをすり替えようか。ステークホルダーでいろいろみんな考えるわけですね。医者や看護師，ケースワーカー，栄養士，みんなで考えるわけです。ここにドラマが生まれる。ここにフィクションのやっぱりがある。

だから，これからこういう授業をやってみたいなと思う先生方は，ぜひ意地悪な視点に立ってみてください。人間が困るのはどういうときか。何でみんな善意なのに，社会はうまくいかないのか。そこに問題発見と問題解決のヒントがある。ぜひそういう視点で授業をつくる。だから今までの授業と全然違いますよね。今までの授業は生徒をきちっと育てるための授業だったんですけど，生徒を悩ませるための授業を皆さんに考えていただく。これは今までの教員とは違う資質が要求されるかもしれません。ぜひ，そこは心を鬼にして，生徒たちが対話，ダイアログができるような課題設定を目指していただけるといいかなと思います。

このぐらいでちょうど時間ですので，ありがとうございました。